

10月20日

看護労働と夜勤に関するシンポジウム

看護師不足が深刻化するも、で、「働き続けられる職場づくり」が、国をあげての課題となっています。「夜勤」は看護師の離職理由の大きな要因です。

看護労働の根幹である夜勤について、最新の知見も交えながら、心身と生活に及ぼす有害性を改めて明らかにするとともに、増員・夜勤制限や労働時間短縮などの法的規制の必要性に焦点をあて、改善をアピールするシンポジウムを開催します。

シンポジスト

佐々木 司氏

(労働科学研究所・慢性疲労研究センター長
・夜勤研究者)

夜勤・交替制労働に関する研究では第一人者。看護職場の実態についても詳しく、日本医労連のとりくみにも関わりが深い。国際的な動きも含め最新の知見や動向に触れていただく。

小川 忍氏

(日本看護協会常任理事、看護師)

同会の「看護職の多様な勤務形態による就業促進事業」のプロジェクト責任者。夜勤・交替制労働に関しては、その健康リスク・安全リスクから、「深夜の休憩・仮眠時間の確保」や「時計回りの勤務表」の重要性を指摘されている。同会の就業促進事業の紹介とともに、夜勤への規制の必要性を発言していただく。

角田 由佳氏

(ジャーナリスト、漢陽大学国際学大学招聘講師、看護研究者)

経済学の立場から、看護労働の問題点やバーンアウト等を研究。米国のリンダ・エイケン氏が1997年に開設したヘルスケアアウトカム・政策研究センターがおこなっている国際的な病院アウトカム研究(IHOS、当初5カ国5カ国で出発し、現在は32カ国。日本では金井パツク雅子・東京女子医大教授が中心)に参加されている。先進国では共通して「看護の危機」が叫ばれているが、国際的な状況とともに、日本での研究を通してバーンアウトの原因や人員配置の貧困さなどについて発言していただく。

山田 真巳子氏

(日本医労連中央執行委員、全日本国立医療労働組合副委員長、看護師)

国立病院はじめ全国の看護や夜勤労働の現状にふれながら、日本医労連の夜勤制限や看護職員確保法等の運動を紹介し発言していただく

〔関連企画・看護学習会〕

看護業務範囲の見直しと看護の原点

講師 川島みどり氏

(日赤看護大学学部長、日本看護技術学会理事長、
健和会臨床看護学研究所長)

日本で「看護の安全性と安楽性」を看護の基本に根づかせた。最近では日本の「看護の危機」に警鐘を鳴らしながら、「生活行動援助」の重要性を科学的に検証しながら「手当て学」の構築を訴えている。看護実践にねざした「看護の原点」の説得力ある講演は、日本医労連ではおなじみ。

著書は、「看護の癒し そのアートとサイエンス 看護治療学への道」「看護技術の現在」「看護学生のための在宅看護論」「凛として看護」「看護師になるには」など多数。



参加を受付中 たくさんの看護師の参加を！